# 北海道教育大学附属図書館

# 圖詢部報

79号

平成19年10月30日発行









-	次	
	巻頭言	2
	特別寄稿 《図書館と本について》	3
	特集:《本と出会う》読書への誘い	4
	無線 L A N が導入されました!!	8
	図書館統計	9
	附属図書館からのお知らせ	10

# 石上宅嗣と岡田健蔵

### 附属図書館函館館長 佐々木 馨

日本図書館史の扉を開くのは、いうまでもなく石上宅嗣(729~81)であろう。「続日本紀」元応元年(781)六月辛亥条は大略こう伝えている。「宅嗣はその旧宅を阿閦寺(あしゅくじ)となし、寺内の一隅に外典の院を置き、名づけて芸亭(うんてい)という。もし好学の士で閲覧を希望する者あれば、ほしいままに、これを許す(中略)内外の両門もと一体たり」。宅嗣は奈良朝の文人貴族らしく儒仏一体(「内外一体」)の観点に立ち、漢籍(「外典の院」)を収蔵する図書館=「芸亭」を創設したのである。

日本の図書館の濫觴をこの石上宅嗣とするなら、北海道図書館史のそれは誰人であろうか。私はためらうことなく、岡田健蔵(1883~1944)を挙げる。市立函館図書館の創設に全生涯を捧げ、北日本の図書館界をリードした屈指のライブラリアンであったからである。市立函館図書館の歴史を紐解くことは、岡田健蔵の62年の生涯を跡付けることに他ならない。

市立函館図書館の濫觴は、明治40年(1907)、 函館区鰪澗町(現、函館市入舟町)の岡田健蔵商 店に付設された函館毎日新聞社緑叢会図書室に始 まる。岡田は、24歳にしてその図書室を任されて 以来、私立函館図書館主事、市立函館図書館事務 嘱託、そして最後に市立函館図書館長とまさしく 「図書館人生」を送った。では、岡田健蔵とはど んな人物であったろうか。まず、人となりについ ていえば、何よりも「純正不曲」を生涯にわたっ て貫き通したこと、図書館のためならば、私財を 投じても資料購入を辞さない「無私無欲」に求め られよう。次に、岡田のライブラリアンとしての 二大足跡を上げるなら、一つに近代図書館の構築、 二つに図書資料の精選収集であろう。

前者の例として、大正5年(1916)に建造された五階建ての「不燃図書館」(相馬哲平の寄付)と昭和3年(1928)に完成をみた三階建ての図書館本館(小熊幸一郎の寄付)がある。後者の例として、徹底した郷土資料の収集がある。岡田は常日ごろから「地方図書館の命は郷土資料にあり」と主張し続けていた。その成果が二万数千点に及ぶ北海道関係資料の収蔵となって結実した。これが「市立函館図書館」=「北方資料の宝庫」という高い評価を国の内外からえられたのである。

岡田と市立函館図書館との不即不離の関係を日本図書館協会事務局長の有山崧氏の語る次の一文を聴きながら結びに代えたいと思う。「函館市立図書館の建物はどっしりしていて立派である。それにも増して書庫の内容がすばらしい。階段の一つにも、蔵書の一冊にも、岡田さんの人間が滲みだしている。一人の人間が一つのことに精魂を打ち込んだ記念のあとである。」(「函館から」〈「図書館雑誌」53巻6号、昭和34年6月〉)

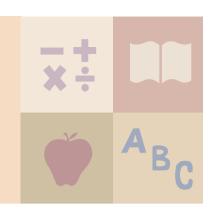
一世紀にわたって北方地域の図書館界を領導してきた市立函館図書館も老朽化のため、平成17年11月27日をもって函館中央図書館にバトンタッチされた。新館オープン以来、平成19年3月現在の入館者数は107万余を数えたといい、月毎の貸し出し数も10万冊を超えているという。この予想外の盛況の楚を創り出したのが、北海道の石上宅嗣たる岡田健蔵であることはもはや自明であろう。〈参考 坂本龍三「岡田健蔵伝」講談社出版サービスセンター、1998年〉

8月27日付けで附属図書館長(副理事)に 就任されました山本先生に 図書館と本に対する思いを綴ってもらいました。

# 特別寄稿

# 図書館と本について

附属図書館長 山 本 光 朗



図書館と言うと、どちらかと言うと私の中で不便というイメージが強かった。私は歴史学を専門としているので、仕事がら使う本の冊数が多い。もちろん自費で購入する本も多い。でも全く足りない。そうした状況が、ある程度緩和してきたのはごく最近のことである。仕事の分野が限られてきたからかもしれない。

こうしたわけで、若い時には図書館に期待する ところが大きかった。でも古い本、ましてや貴重 書はなかなか図書館での閲覧が難しい。大学図書 館の中には意図的かと思うぐらい閲覧するのが困 難な場合もあったように覚えている。

しかし以前いつ頃のことであったか、講義の関係で北海道大学の北方関係の貴重書等のデータベースをウェブ上で閲覧する機会に触れ驚くとともに、よく調べてみるとさらにこの種のシステムが他にも意外に多くあることを発見してさらに驚いた。その時に、従来の図書館と書籍等に関するイメージがかなり変わったように思う。

昨今の図書館はこうした、従来の「本」という 紙媒体のみならず、その他のインターネット等に 関連する資料等も含んだハイブリッドな図書館と いうことが言われている。もちろんこうした点が 今後ないがしろにされるということはあり得ない し、きちんと対処してゆくべきことである。しか し一方で書庫の容量の限界ゆえ、「紙媒体」たる 本が処分されてゆくという現実もある。 「紙媒体」たる本についてもう少し言うと、最 近は相当安価に(私などには勿論そのほうが便利 なのであるが、こんな立派な本がこの値段かと寂 しく思うこともある)古書を販売する古書店のチ エーン店などもあるし、ネット上で最安値の古書 (と思われるもの)を見つけることも可能である。 一方で若者が本を読まなくなった、と言われる傾 向も言われてから久しいという現実がある。

さらに例えば「紙媒体」たる事典など見ても、 最近色々問題を指摘されている、ウェブ上での書 き込み自由の事典に、アップトゥデイトという点 で(正確さについては色々問題があるが)、かな わないかと思うときもある。辞典などでも電子辞 書をかなりの学生が所持している。

本あるいは古書の環境は厳しい。そして図書館 の環境もいろんな意味で極めて厳しいものがある ように思う。

# 本と出会う 読書への誘い

# 『そうかもしれない』耕治人著

# あたしが考えていることが ちっとも実現しない

耕治人『そうかもしれない』は、名作と評判の高い短編連作だが、最近、市立図書館の棚で見つけて初めて読み始めた。借りたのは武蔵野書房から昨年末に出た単行本だが、晶文社から今年になって出た版の紹介文はこんな風に書き始めている。

八百屋や魚屋に買ったものを忘れてくるようになった。それが始まりだった。五十余年連れ添った妻が脳軟化症を病み、夫もがんに倒れる。

「天井から降る哀しい音」は、煮物の鍋をこが してばかりいる妻がついにボヤをおこし、火災報 知器をとりつけるのだが、著者が買い物に行って 帰ってくると、トロ火にかけた鍋の上で、警報機 がなりはじめている、という話。夜中に起き出し、 電気毛布をたたみはじめたりした時に、なんとか 落ち着かせて寝かせ、電気を消そうとすると、

「あたしが考えていることがちっとも実現しない」と、言い出す。巻末の年譜によると1986年1月、二人が80歳の時のことだ。

「どんなご縁で」は、「あたしはもう洗濯が出来ないわ」と呟くのを聞いた、というのが書き出しで、入浴もできなくなり、介助をする方もだんだんつらくなるし、失禁するようになって、施設に入れることになるまで。ベッドの間にうつむきに倒れて、著者が起こすこともできないことがあり、とにかく湯をわかして、小水の溜まりを雑巾でふいていると、妻が立ち上がる。しめたと手拭いで身体をふき、寝間着を着替えさせると、

「どんなご縁で、あなたにこんなことを」 と呟くのを聞いて、ハッとする。どうして家内と 一緒になったか、と来し方が次々とよみがえる。

がんの放射線治療を受けている著者の入院先に、今は老人ホームに入居している同い年の妻が付き添いに連れられておとずれて、「ご主人ですよ」と何度かいわれたあと、「そうかもしれない」

と「低いが、はっきりした声でいった」。これが 絶筆となった短編名の由来。

この三編が、著者晩年80歳から81歳にかけての 三部作。耕治人は82歳になる直前、口腔底ガンで 死去、妻はその15年後に亡くなったそうである。 佐々木 周 (旭川校)

# 『やさしい教育心理学〔改訂版〕』 鎌原雅彦・竹綱誠一郎著

教育心理学の入門書。興味を持って読み進められるようにコラムが充実しており、教育心理学のエッセンスがわかりやすく書かれています。各章の末に参考図書が解説つきで紹介されているので、さらに専門的に学習していきたい人にもぴったりです。

教育関係に役立つ知識や考え方が身につくことはもちろんですが、それだけではありません。大学生活を送る中で悩むことも多いかと思いますが、日常のさまざまな場面を心理学的な観点から捉え、そこに心理学的な考え方を応用することができれば、より実りある大学生活につながっていくはずです。

どうしてサークル活動がうまくいかないのか、 どうしてゼミの準備がはかどらないのか、どうし て人間関係で苦労してしまうのか。さまざまな困 難を解決していく上で、考えるヒントがたくさん 隠されている好著。物の見方がレベルアップする きっかけになります。教育実習に行く前に、ある いは教員採用試験を受験する前に、教育大生なら ぜひ読んでおきたい1冊です。

樋口 敏也 (札幌校)

# 『仏像のひみつ』山本勉著

仏像の特徴といえば、まず最初に何を思い浮かべますか?私が思い浮かべるのは、仏像の額にあるあのありがたい雰囲気のイボです。この本を読むまでは、あれは本当にイボだと思っていました。しかし、あれはイボではなく、如来が長時間修行しているあいだに伸びた長い毛がまとまったものだそうです。驚きです。この本には、このような興味深い仏像トリビアがたくさんつまっています。

この本は、東京国立博物館で2005年に開催された「親と子のギャラリー 仏像のひみつ」という展覧会の内容をもとにして書かれた本で、著者は、東京国立博物館の元館長さんです。「仏像たちにもソシキがある!」「仏像にもやわらかいのとカタイのがいる!」「仏像もやせたり太ったりする!」「仏像の中には何かがある!」という4つのひみつについて、写真や挿絵を豊富に取り入れながら解説しています。解説文はとてもわかりやすく、小中学生が読んでも理解できるようになっているだけでなく、随所にしっかりとした詳しい解説もあり、大人が読んでも十分満足できる内容です。

仏像に興味がない人でも、読めばきっと仏像好きになるはずです。そして、お寺や博物館で仏像を鑑賞するのが楽しくなるはずです。「仏像の解説書」というよりは「仏像の絵本」という感じの本なので、軽い気持ちで読んでみてはいかがでしょうか。

溝淵 由希(札幌校)

# 『じぶん・この不思議な存在』鷲田清一著

ここ数年、「自分探し」という言葉をよく聞く。 私自身も予定に追われながら日々を過ごしている と、ふと自分が見えなくなってしまうように感じ ることがある。しかし自分探しは時に、かえって 自分を見失ってしまいがちである。「本当の自分」 を求めて延々と自分探しを続け、そのうちに自分 のことがさらに分からなくなってしまう。近年の ニート問題などでも、根底にはそのようなことが あるのではないだろうか。

この本では「自分は誰なのか」という問いに対して「そもそも『自分』とは何なのか」という観点から向き合っている。特に印象に残ったのは、「常に複数の自分を存在させておく」考え方である。実際の生活を振り返ると、私達は様々な場面で多様な人格を使い分けている。そのため、本当の自分が誰なのか分からなくなってしまう。そこで自分を何か特定のものと決めつけるのではなくて、場合によっていくつもの自分が存在していて、自分は何者なのか規定し難いものだと認識しておくのである。筆者のこの考え方は、自分の複数的なあり方を肯定的に受け止めている。これは自分探しという問いに対する一つの答えである。

私は筆者のこの考え方に出会ってから、「自分」に対して大らかに構えることが出来るようになった。私だけではなく、意識的或いは無意識的に自分探しをしている人全てに、この本は何らかの答えを導いてくれる。「本当の自分」を求めている人に、ぜひ読んで欲しい本である。

柴田 鏡子(函館校)

耕治人著『そうかもしれない:耕治人命終三部作その他』(武蔵野書房 2006)

耕治人著『そうかもしれない』(晶文社 2007)

耕治人著『一条の光・天井から降る哀しい音』(講談社学芸文庫 1991)

『耕治人全集 第4巻』(晶文社 1989)

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学〔改訂版〕』(有斐閣 2005)

山本勉著『仏像のひみつ』(朝日出版社 2006)

鷲田清一著『じぶん・この不思議な存在』(講談社現代新書 1996)

# 読む愉しみ 知る愉しみ

# 『カラフル』森絵都著

死んだ魂が"ホームステイ"と呼ばれる人生への再挑戦に挑み、自分の犯した罪を償うという。 見事その機会得た主人公のぼくは、天使プラプラのもとで別人の身体を借り、小林真として第二の人生をスタートする。しかし、ぼくは恋人、兄弟、両親、友人らとのやり取りで人間の汚い心を目の当たりにしてしまい、よどんだ人間関係の中での生活が待っていた。やがて日々奮闘するぼくは、人々とのつながりの中から前世に犯した自分の罪に気づいていくというストーリー。

人生の中でいろんな人と出会いがあるが、その出会いひとつひとつを考えさせられる物語。個性豊かな人間社会の中で、思春期の男の子の独特の感情の変化が描かれていて、家族愛、友情、恋愛、勉強など様々な日常生活から人生というものを振り返ってみたくなる。非常に読みやすいつくりになっているので、あまり本を読まない人にもおすすめできる一冊。

山上 祥吾(函館校)

# 『モモ』 ミヒャエル・エンデ作 見えないものの大切さ

私がオススメする本は、「ネバーエンディングストーリー」の作者でも有名なミヒャエル・エンデの著作「モモ」です。物語の舞台は一体どこかもはっきりとはわからないどこかの国のどこかの町。主人公のモモは、年齢も素性もわからない女の子です。相手の話をじっと聞くことによって、その人に自分自身を取り戻させることのできるという不思議な能力、宇宙の音楽を聞き取り、星々の声に耳をかたむけることのできるという能力を持ったモモは、「灰色の男たち」という奇妙な時間どろぼうから、盗まれた時間を取り戻すために奮闘します。

この物語は全体として楽しく美しい童話の形式にまとめられていますが、その裏側には管理された文明社会の枠の中に組み込まれた現代人への痛烈な批判が込められています。この物語が出版されてから30年が経った今でも色あせずに輝き続けるのには、現代人が忘れてしまった「目には見えない大切なもの」をこの物語が教えてくれているからではないでしょうか。

野田 忠史(釧路校)



森絵都著『カラフル』(理論社 1998) ミヒャエル・エンデ作『モモ』(岩波書店)

ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著『子どもが育つ魔法の言葉』(PHP 研究所 1999)

夏目漱石著『こころ』(岩波文庫・新潮文庫など)

シェル・シルヴァスタイン作『おおきな木』(篠崎書林 1976)

植村直己著『青春を山に賭けて』(文春文庫 1977)

 $\bigcirc$ 

# 『子どもが育つ魔法の言葉』 ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著 みなさんにおすすめの1冊

この本は、子どもが明るく、元気よく正直で正 義感のある子どもに育つか乱暴で、人をけなした り、不安をかかえるような子どもに育つかは、親 の影響が大きく関わっているということを、実践 例を用いて説明しています。子どもが良くも悪く も育つかは「親次第」。私のおすすめの一冊…

『子どもが育つ魔法の言葉』ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著

みなさんも読んでみて『子どもが育つ魔法の言葉』を見つけてみて下さい。

山口 未奈登(釧路校)

# **『こころ』夏目漱石著** 変わるこころ

みなさんは親友を裏切って恋人を得たことがありますか?もし、その影響で親友が自殺してしまったらどうしますか?この「こころ」は、そんな人生を歩んだ孤独な明治の知識人の内面が描かれた作品です。

夏目漱石の代表作でもある「こころ」は、国語の教科書など様々なところで目にかけます。私も、初めて読んだきっかけは高校の教科書の中でした。当時の私はテスト勉強のために教科書に載っている「こころ」を何度も読んでは登場人物について考えていました。それから四年の歳月が経った現在、大学の図書館でふと手に取った「こころ」に懐かしさを感じ、今度は高校時代の教科書に載っていた「こころ」の一部分ではなく「先生と私」「両親と私」「先生と遺書」の三部全てを読みました。この三部を読み終える頃には、また違った「こころ」の中を見ることが出来ました。一度読まれたことのあるみなさんも、もう一度懐かしい気持ちになって読まれてみてはどうですか?

# 『おおきな木』シェル・シルヴァスタイン作

私が紹介する本は、シェル・シルヴァスタイン作『おおきな木』という絵本です。モノクロで、すべてひらがなで書かれているシンプルな本なのに、伝えたいことはどこか難解で、考えさせられます。

男の子が小さい頃仲良しだった、おおきな木。 男の子は少年に、そして大人になっていきます。 そんな男の子の一生を、大きなりんごの木は実、 葉、枝を与え続けながら見守ります。一つずつ無 くなっていくのですが、それを喜びとして受け止 めているおおきな木。無償の愛、大切な人へのお おきな愛に胸が熱くなります。

読む人の年齢や境遇で、色々なことを感じ取れることのできる深い絵本です。人間関係に悩んだとき、自分自身を振り返り、自分を知ることができる素晴らしい絵本です。

そして、大切な人に贈りたくなる一冊です。 柳舘 みな (岩見沢校)

# 『青春を山に賭けて』植村直己著

この本が私に与えた影響はとても大きいです。 今の流行に逆らうような山登りに私がはまるきっ かけを作ったからです。

植村直己を聞いたことがある人は、そんなにいないのではないでしょうか。聞いたことがある人も、賞に名前がついているので聞いたことがあるのかもしれません。しかし、植村直己が今まで達成してきたことは偉業と呼べるものでした。日本人初の5大陸最高峰制覇や犬そりによる北極点単独独行とグリーンランド縦断成功などです。この本には、山をはじめるきっかけから5大陸最高峰制覇をして、次なる目標までが書かれています。

無謀な挑戦に忍びよる失敗も、やる人の熱意ややる気、体力によっては追いつけずに、チャレンジは成功に届いてしまうものなのだと感じました。あきらめるから、そこで終わってしまうんだと。

この本はただの自慢話ではなく、植村直己の謙虚さや周りの人への感謝を忘れていない、そして、 青春の1冊です。

和泉 友喜(岩見沢校)



# が導入されました!!

図書館内でも

自分のノートパソコンでインターネットが 利用可能になりました。是非ご活用ください。

平成19年4月下旬から順次各キャンパスの図書 館内に無線 LAN のアクセスポイントが設置され ました。利用できるのは、本学に所属している教 職員および学生です。

ノートパソコンをお持ちの方は、図書館に持ち込んでインターネットに接続できます。図書館資料とインターネットの両方を使って情報収集をしながら、自分のパソコンでのレポートや資料の作成ができるようになりました。

電波受信可能なところであれば、どこでも利用可能ですが、図書館内には学習に集中している方、静かに読書している方、熟睡している方(?)等、キーボードタッチ音を気にされる方もおりますので、各図書館内の所定の場所でご利用ください。また、パソコンのスピーカーについてはOFFにするか、ヘッドフォンを利用する等、音が漏れないよう、ご注意ください。

# ◆ 接続方法について

各キャンパスの図書館カウンターに接続マニュアルがありますので参照願います。

また、大学教育情報システムのホームページにも接続マニュアルが掲載されております。

# ◆ 必要な機器等

- 1. パソコン (動作確認済み OS は Windows XP SP2, Windows VISTA, Mac OS 10.4 以上です。)
- 2. 無線 LAN アダプタ (接続マニュアル参照)
- 3. 大学教育情報システムの「アカウント」と 「パスワード」

# ◆ サービス提供エリア

札幌館 2 F閲覧席(南側)

函館館2 F 閲覧席旭川館3 F 閲覧席

釧路館 2 F新着図書・雑誌周辺の閲覧席

3 F OPAC 周辺の閲覧席

岩見沢館 2 F入口側閲覧席

※北海道教育大学無線 LAN システムは、利用者に対するネットワーク環境の整備を目的に、教育環境充実の 一環として設置しています。



# 附属図書館利用統計(平成18年度)

	項目	全 館	札幌館	函館館	旭川館	釧路館	岩見沢館
開	館日数(日)		342	335	309	344	328
内	開館日数(平日)		239	232	214	238	230
訳	開館日数(休日)		103	103	95	106	98
入	館者数(人)	476,069	117,882	91,475	110,592	87,140	68,980
内	入館者数(学内)	463,722	116,450	89,747	103,737	85,590	68,198
訳	入館者数(学外)	12,347	1,432	1,728	6,855	1,550	782
貸	出册数(册)	85,480	19,255	23,791	16,424	15,686	10,324
相	文献複写(受付)(件)	4,546	2,624	751	279	594	298
相互	文献複写(依頼)(件)	6,673	1,709	1,655	1,616	439	1,254
利用	図書貸借(貸出)(冊)	2,592	850	566	287	504	385
用	図書貸借(借用)(冊)	2,658	485	830	628	252	463

# 附属図書館所蔵統計

# 平成19年3月31日現在

	項	目	全 館	札幌館	函館館	旭川館	釧路館	岩見沢館
所	蔵	数(冊)	991,041	257,126	245,581	168,863	169,351	150,120
内	和	書	870,772	222,554	213,545	147,474	152,713	134,486
訳	洋	書	120,269	34,572	32,036	21,389	16,638	15,634
	総	記(和書)	85,894	34,156	29,110	6,392	9,873	6,363
	総	記(洋書)	8,813	3,366	1,682	1,443	1,264	1,058
			94,707	37,522	30,792	7,835	11,137	7,421
	哲	学(和書)	59,924	14,271	14,358	11,478	10,626	9,191
	哲	学(洋書)	14,173	3,591	3,527	3,334	2,098	1,623
			74,097	17,862	17,885	14,812	12,724	10,814
分	歴	史(和書)	91,005	23,167	20,091	16,412	18,850	12,485
	歴	史(洋書)	8,222	2,084	1,655	1,828	1,497	1,158
			99,227	25,251	21,746	18,240	20,347	13,643
	社	会(和書)	269,129	66,389	62,559	48,218	44,774	47,189
類	社	会(洋書)	26,091	8,878	6,227	4,785	3,606	2,595
			295,220	75,267	68,786	53,003	48,380	49,784
	自	然(和書)	98,797	24,038	20,118	20,171	18,244	16,226
	自	然(洋書)	19,364	4,725	6,916	3,505	1,903	2,315
別			118,161	28,763	27,034	23,676	20,147	18,541
ן נינגו	工	学(和書)	30,987	7,417	8,732	4,686	5,615	4,537
	工	学(洋書)	1,904	858	446	314	263	23
			32,891	8,275	9,178	5,000	5,878	4,560
	産	業(和書)	23,409	6,174	5,770	3,444	3,671	4,350
内	産	業(洋書)	1,318	476	388	217	108	129
			24,727	6,650	6,158	3,661	3,779	4,479
	芸	術(和書)	61,934	13,321	14,015	11,989	10,390	12,219
	芸	術(洋書)	6,457	2,419	1,068	859	573	1,538
訳			68,391	15,740	15,083	12,848	10,963	13,757
	語	学(和書)	34,803	8,897	9,000	5,271	6,188	5,447
	語	学(洋書)	13,193	3,812	4,196	1,652	1,739	1,794
			47,996	12,709	13,196	6,923	7,927	7,241
	文	学(和書)	114,890	24,724	29,792	19,413	24,482	16,479
	文	学(洋書)	20,734	4,363	5,931	3,452	3,587	3,401
			135,624	29,087	35,723	22,865	28,069	19,880

# LIBRARY NEWS 附属図書館からのお知らせ

# 札幌館

- パソコン学習室(3F)に有線LANが導入されました。大学教育情報システムのユーザーIDとパスワードでログインできます。
- 論文検索のためのデータベース・電子ジャーナルの使用方法の習得を目的としたガイダンスを実施しています。個人やゼミ単位等での参加をお待ちしています。お気軽にお問い合わせ下さい。

http://s-opac.sap.hokkyodai.ac.jp/library/top.html 〒002-8503 札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目1-6 IEL 011-778-0288

# 函館館

• 1号館耐震改修工事期間中(~平成19年11月30日)平日の開館時間は8:30~20:50です。また、正面玄関から図書館への往来は、玄関ホール階段からの迂回(1号館2階を経由)となります。

しばらくの間不便をおかけしますがご了承くだ さい。

http://www.h-lib.hak.hokkyodai.ac.jp/ 〒040-8567 函館市八幡町1-2

TEL 0138-44-4231 (発信専用: 0138-44-4399)

# 岩見沢館

• OPAC 及び CiNii の講習会受け付けています。

http://www.iwa.hokkyodai.ac.jp/~tosho/ 〒068-8642 岩見沢市緑が丘2丁目34-1 IEL 0126-32-3240

# 旭川館

•管理棟改修工事に伴い、平成20年3月31日(月)まで休館の予定となっていますが、下記のとおり業務を引き続き行っておりますので、どうぞご利用ください。

### S102 (図書館事務室 旧:共用室)

他機関への文献複写・図書借用の依頼及 び、到着資料の引渡・返却、レファレンス サービス(参考調査・利用相談)

### S 209 (書庫 2)

教科書・指導要領類、視聴覚資料等の利用

### S111 (教職大学院準備室)

情報検索用端末の利用、新聞の閲覧、視聴 覚資料の利用

利用時間は、平日の9:00-12:00、13:00-17:00 (S111は12:00-13:00も開放)となります。

しばらくの間ご不便をおかけしますがご了承ください。

http://www.asa.hokkyodai.ac.jp/office/tosho/ 〒070-8621 旭川市北門町 9 丁目 ILL 0166-59-1235

### 釧路館

• 4月から7月までの期間多くの学生さんに図書館ガイダンスに参加していただきました。

《初心者向けガイダンス》 140名受講 館内案内、貸出・返却、延長(予約)サー ビスの説明、OPACの基本的な使い方など

- 《情報検索ガイダンス(中級)》 72名受講 蔵書検索の方法、資料の取り寄せ方、参考 図書の使い方など
- 図書館では引き続きガイダンスを実施しています。上級ガイダンスもございます。 ガイダンス申し込みは図書館ホームページ又は、図書館カウンターにてお問い合わせください。

http://www.kus.hokkyodai.ac.jp/users/library/ 〒085-8580 釧路市城山1丁目15-55 IEL 0154-44-3243

編集/発行 〒002-8503 札幌市北区あいの里5-3 北海道教育大学附属図書館(札幌館)